

春日部福音自由教会 2020年8月2日 11:00 中央会堂礼拝（同時配信）  
聖書 新約聖書 マルコの福音書 8章 27節～30節  
説教 「わたしを誰だと言うか？」小野信一牧師

おはようございます。

2020年8月2日の主の日の礼拝を共にささげております。今日は月の初めの日曜日、聖餐式を久しぶりに行うことにいたしました。2月に聖餐式をして、3月1日は取りやめてからしていませんでしたので、半年ぶりということになります。今日は、現在41名の方がこの中央会堂の礼拝に出席をしています。また、同時配信も続けていますので、家での礼拝をささげている方もおられます。今日はマルコ8章の27節から30節までが朗読されました。“わたしを誰だと言うか？”と題して御言葉を取り次がせていただきます。

もう一度お祈りをささげましょう。

天にいらっしゃる私たちの父なる神様。あなたは私たちの父であり造り主であり、いつも見守ってくださる方であり、私たちの羊飼いであられます。どうか私たちの通って行く全ての道であなたが共にいてください。足元を照らし、手を取り、共に歩んでくださいますように。今日私たちは、8月の最初の日曜日の主の日、このようにここに集まり、また三つの会堂に集まって礼拝をささげています。私たちが集まる時、また賛美を歌う時、そのことが感染の原因となることのないようにお守りください。また今日は久しぶりに聖餐式を行おうとしています。準備をして参りました。出来る限り注意を払っているつもりではありますが、しかし神様が全てのことから守って下さいますように。恵みのときとしてください。いま御言葉が朗読されました。イエス様の声を、言葉を、今日ここでもう一度聞かせ、一人ひとりがその声を聞いてイエス様にお答えすることができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

I イエスの問いかけ「あなたはわたしを誰だと言う？」

イエス様が問いかけておられます。“あなたはわたしを誰だと言いますか？”

今日、答えてみましょう。今日、自分にイエス様が問いかけているならば、何と答えましょうか。マルコの福音書が、「イエスとは誰なのか？」ということを変え続けています。そして今8章まで来たのです。私たちは聖書を読む時に、「イエスとは誰なのか？」と心を開いて聞こう、見ようとしていると、だんだん聞こえてきます、見えてきます。すぐには分からないこともあります。12弟子もそうでした。目が見えない人が見えるようになりました。見えなかったのが見えるようになった。人が歩いている、でも木のように見える。ぼんやり見えていたのです。半分しか見えませんでした。でもその後、イエス様が再び手を置くとはっきり見えるようになった。今日、マルコの福音書の真ん中、8章で、ピリポ・カイサリアにおいて、ペテロが「あなたはキリストです」と告白しました。立派な答えをしたのです。でも全部が分かったわけではありませんでした。信仰の目が開かれました。でもまだ半分であり、ぼんやりとしか見えていない。

私たちもそうなのではないでしょうか。一瞬で、一日で、一晩でイエス様の全部がわかるということはないのです。だんだんわかってきます。今日はマルコの福音書の真ん中、ひとつの山です。峠です。ペテロの信仰告白です。イエス様が問われます。「あなたはわたしを誰だと言いますか？」ペテロが弟子たちを代表して答えます。「あなたはキリストです」。

## Ⅱ 信仰の告白

今日は聖餐式を行おうとしています。お互いに与えられた主イエス・キリストへの信仰に基づいて、共にパンとぶどう液に与ろうとしています。私たちは、イエスを誰だと信じるのでしょうか。聖書全体がそのことを伝えています。しかしこの分厚い聖書の中で、もしそれをまとめるとすればどういう言葉になるでしょう。2000年の教会がこの聖書に対する信仰をギュッとまとめて短い言葉にしてきましたけれど、そのひとつが「使徒信条」として、私たちが持っているこの新聖歌にも掲載されています。毎週祈る主の祈りが載っている826ページの上の段に「使徒信条」があります。今日これをご一緒に読むことはいたしませんけれども、その一部を読ませていただきます。

この「使徒信条」は、父なる神、主イエス・キリスト、そして聖霊に対する信仰の告白になっています。三位一体の神に対する告白、最初は「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」から始まり、終わりは「我は聖霊を信ず」、そして「とこしえのいのちを信ず。」で結ばれます。真ん中の部分がイエス・キリストに対する信仰です。こうなっています。「我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女（おとめ）マリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府（よみ）にくんだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを審きたまわん」。主が聖霊によって宿ったところから、もう一度来られて裁きをなさる、というところまでのことが、ここに告白されています。“イエスとは誰であるのか”。これは聖書が私たちに問いかける最も大事な問いであります。最も大事な問いを私も今日、皆さんに問いかけてみたいと思うのですね。“皆さんはイエスのことを誰だと言いますか”という問いです。

イエス様ご自身が問いかけておられるのです。

### 1. 「イエス様って誰だろう？」

27節からのところを見ていきましょう。イエス様は弟子たちとまた旅をしておられます。ピリポ・カイサリアの村々に出て行かれた。その出かけた途中、“その途中”と書いてあります。旅の途中で、イエス様が問いかけるのです。イエス様の質問は二つあります。より大切な質問は、「あなたがたはわたしを誰だと言いますか？」という質問です。ここはマルコの福音書の真ん中であり一つの山です。「イエス様っていったい誰なのだろう？」弟子たちはそのことを不思議に思いながらイエス様を見続けてきました。またイエス様の奇跡の中に身を置いてきました。そして今日この日、ここでイエス様が弟子たちに問いました。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか？」。ペテロが「あなたはキリストで

す。」と答えたのです。キリストとは脚注にも、“すなわち「メシア」”、と書いてありますように、メシアをギリシャ語に訳したのがキリストという言葉で、“油そそがれたもの”という意味だそうです。

「油そそがれる」とはどういうことでしょうか。旧約聖書で油を注ぐってというのは、どういう時に行われたでしょう。任命する時でした。誰を任命するのでしょうか。預言者、祭司、そして王を任命する時に、油を注いで祈って任命をしたのです。ですから油注がれた方、メシアが再び来られるのだということが、イスラエルの民の希望でした。特に「王として、新しい王としてもう一度来てくださる、メシアが現れてもう一度治めてくれる」という期待がありました。イエス様はまさに預言者でもあり、祭司でもあり、王でもある方でした。

ペテロは告白します。「あなたはキリスト・メシアです」。見事な告白をしました。しかし彼の目は開かれたのですが、まだ半分しか開かれていません。メシアである、キリストである、とはどういう意味なのかを知るのはこれからなのです。メシアが来て、もしかしたら戦って勝利を取って王になってくださる、という期待が人々にもペテロにもあったかもしれません。「あなたはキリストです」とペテロは言いました。でもキリストであるとはどういうことなのか、このすぐ後にイエス様はその予告を始めます。それはまだペテロはわかっていなかったのです。「人の子は多くの苦しみを受けるだろう、捨てられ殺されるだろう」という予告がこのすぐ後 8 章 31 節から始まりますが、メシアであるキリストは「捕まって捨てられて殺されるのだ」ということはまだ分かっていないのです。半分目が開かれている、でも半分はまだ閉じている、というところにペテロたちはいます。

イエス様と共に歩む旅路の途中で、今日のこの出来事があります。ここまで 12 弟子たちは、イエス様とともにガリラヤ地方の旅をしてきました。ここが一つの区切りになって、ここから先、福音書の後半に向かってエルサレムへの旅が始まります。エルサレムは都ですがどんな場所でしょうか。イエス様にとってそこは死に場所です。最後は十字架が待っている場所です。

今イエス様と弟子たちは、まだピリポ・カイサリアという地にいます。これはガリラヤ湖、そのすぐ前のベツサイダの町から北のほうに、湖から北に約 40km 行ったところのようです。そしてヘルモン山という山があり、時に雪が降るような山だそうですけれども、その麓にこのピリポ・カイサリアの町があります。新約聖書の時代の地図に、ヘルモン山の麓に“ピリポ・カイサリア”があります。旧約時代の地図を見ると、そのあたりには“ダン”という町があります。ダン部族ってありましたね。ダン。よく旧約聖書には「ダンからベエル・シェバまで」という言葉がありますけど、私たちが言えば“北海道から沖縄まで”みたいな感じですね。北から南まで、全国全土、という意味でしょう。その北の端のダン、その辺りにこのピリポ・カイサリアがあります。山の麓、高いところ、そして南を見るとガリラヤ地方を見下ろすことができる、そういう場所だそうです。山の方からガリラヤを見下ろし、そしてさらに南、さらにその向こうにエルサレムがある、ユダヤ地方が見えている、そういう土地らしいですね。下には

ガリラヤ地方があり、その向こうにユダヤがある。

ガリラヤの色々な町々を通して弟子たちは歩いてきました。湖での事件もありました。病気もありました。癒しもありました。パンの奇跡も2度経験しました。そういう町々、あるいはその地を見下ろしながら、イエス様は問いかけておられるようです。「あなたがたは何を見てきたのか。何がわかったか。何を悟ったか。そしてあなたがたはわたしをだれだと思うのか。さあこれからわたしたちはエルサレムに向かっていく。その意味がわかるか?」。イエス様が問いかけておられるようです。旅の途中です。福音書が半分来て、これからはエルサレムに向かう、死に場所に向かう旅が始まろうとしています。弟子たちはその途上で問いかけられたのです。

私たちも同じです。人生の途上で、今それぞれ生まれて生きて死ぬ、その人生の間、途上のどこかに今私たちはいて、歩んでいる。私たちも人生の途上で問いかけを受けます。「あなたはわたしを誰だと言いますか?」。今日答えてみましょう。これまでイエス様とともにどこを歩んで、どんな経験をして、何を見てきたでしょう。どんな言葉を聞いてきたでしょう。どんな経験をしてきたでしょう。その上で、イエス様を誰だと言うのでしょうか。今日答えてみたいと思うのです。

イエス様の問いがふたつありました。27節を見てみましょう。「その途中、イエスは弟子たちにお尋ねになった。『人々はわたしを誰だと言っていますか?』」。

ひとつは、「あなたの周りの人たちは何と言っているか?」ということです。皆さんどうでしょう。皆さんの周りの人たちは、このイエスのことを誰だと言っているのでしょうか。イエスのことを何だと思っているのでしょうか。あなたの家族は、親は、友はどうだったでしょう。皆さんが属する会社や学校や組織やグループの人たちは、イエスについてどう思いどう言っていたのでしょうか。また、私たちの周りのこの国の人たちは、イエスのことを何だと言って、何だと思っているのでしょうか。

## 2. 「みんなはなんと言っている?」

12 弟子も色々考えて答えました。「バプテスマのヨハネだと言っている人たちがいます」。バプテスマのヨハネはイエス様のすぐ前に現れた、イエス様と重なって生きた人です。でもこの時点でもう殺されている。ヘロデに首をはねられたのです。「イエス様、あなたのことをバプテスマのヨハネが再来したのだと言っている人たちがいます」。また他の人たちはこう言っています、「エリヤだ」と。エリヤはもっと前、何百年も前に生きた旧約聖書の預言者です。そしてこの地上を生まれて生きて死ぬのではなくて、死なずに天に上げられた人物、特別な人ですね。そのエリヤが現れた、それがこのイエスという男なのだと考えている人もいます。またある人たちはこう言っています。「あの預言者たちのひとりだ」と。これは特にあの偉大な預言者モーセが言った「私のような一人の預言者が現れる」という、“特別なあの来るべき預言者だ”と言っている人たちがいる。

私たちもイエス様と対話をしてみましょう。皆さんがイエス様に問われたら、あなたの周りの人たち

は私のことを何だと言っていますか、誰だと思っていますか。なんて答えるでしょうか。日本ではイエスが名前でキリストが苗字、イエス・キリストだからそう思っている人もいます。外国人だよ、キリストって外国の神様でしょ」って思っている人もいますよ。『偉大な教師だ』、『キリスト教の創始者である』、『教祖のようなものだ』という人もいます。また多くの人は『イエスというのはあの十字架で死んだ人だよ』というのじゃないでしょうか。『右の頬を打たれたら左の頬を向けよ』って、あのすごい教えの愛の人だよ』という人もいます。『危険人物だ』とか、『この日本ではイエスやキリストや耶穌を信じると、大変なことになって村八分になるのだよ』って思っている人がいたし、今でもいるかもしれません。『あなたの周りの人々はわたしイエスのことを誰だと言っていますか？』。イエス様に尋ねられたら何と答えましょう。私たちがイエス様と対話してみよう。もし今できたら心の中で、『私の周りの人たちは、私の家族は、近所の人は、あなたのことをこんな風に思っているようです、こんな風に言っています。イエス様、あなたは人々からこんな風に思われています』って答えてみましょう。心の中で答えてもいいし、何か書いておいていただいても結構です。

### 3. 「あなたはどう思う？」

弟子たちが答えるとイエス様は次にもう一つの質問をされました。『私たちの私の周りの人たちはこう思っています』と言うと、今度はイエス様が尋ねます。『ではあなた方はわたしをだれだと思う？わたしをだれだと言うの？』。これも答えてみましょう。今皆さん心の中で答えるとするならばどう答えるでしょう。『イエス様、』もうイエス様に“様”をつけるところで何かそれなりにイエス様への思いがもう出ているのですが、『イエス様、あなたはこれこれの方です。あなたはこういう方だと思います』。すでに洗礼を受けている人、まだそうではない人、教会に来て間もない人もいます。どう答えるでしょうか。とても大切な質問です。

私は今回改めて、自分が中学生だった時の夏のキャンプを思い出しました。この質問をされたのです。キャンプのテーマがこの御言葉で、『わたしを誰だと言いますか』っていうイエス様の質問で。『答えてみましょう。あなたはどうですか？』って分級で聞かれたのです。そのメッセージの後に『信ちゃん、君はどう思ってるの？』って言われました。その時の私は、ちゃんと答えられなかったという記憶があります。心で信じていることはあったのですが、口で告白していることが一致してなかった。これは答えるのが難しい質問、人によってはあるいは時期によっては、聞かれても困るような恥ずかしいような思いになることもある。でも尋ねられて良かったなとは思っているのです。後で振り返って、あの時の自分のことがわかる。

私は中学生あるいは小学生の頃の事を思い出すと、幼稚園の頃からそうかもしれませんが、『イエス様って誰ですか？』と聞かれれば、『クリスマスに生まれた赤ちゃんです』、『神の子です。神の子が2000年前に生まれたのです』って思っていました。でもその頃は『2000年前に生まれたのでその前

はいなかった」と思っていたのですが、もっと聖書がだんだんわかってくと「その前からいた方なのだ」ってことがわかるようになりました。そしてその前からただけじゃなくて「イエス様は創造者ご自身なのだ」ってということが分かるようになった。あの嵐の湖のように“黙れ静まれ”と言ったらそのようになった。“光よあれ”と言われた、するとそのようになった。同じお方なのだって分かってきた。

それから、イエス様は“復活の主”ですけれども、前は「昔よみがえった方」だと思っていました。「昔よみがえってそれからその後どうなったのだろう、死んでよみがえってまた死んだのかな」みたいな感じ。でも今は、“よみがえって天に上り今も生きています方”として信じています。

そして今、もし「イエス様って誰ですか？」って聞かれたら、例えば「イエス様は新しい王国の王。再臨の主で、もう一度来られる方です。この世界の全てを新しくしてくださる方だと信じています」と自分が言えるようになったと思います。

信仰の目が開かれていく。見えない目が見えるようになっていく。

私たちの信仰の旅も途上なのです。今日はそれぞれが答えてみてほしいと思います。心の中で問いかけておられるイエス様に答えてみましょう。弟子たちがイエス様と対話したように、私たちもイエス様の質問、自分に投げかけられている質問として答える。「私の周りの人達はイエス様のことを、こう思っています」。そして次に、「ではあなたはどうですか？」って聞かれます。それをイエス様に話すのです。「イエス様、あなたはこれこれの方です」。

ただ聖書を読んで礼拝に行って説教を聞いてそれで帰るだけではなくて、イエス様と会話をしてほしいと思うのです。そしてできるならば、それを誰かに話してお互いとの間で対話をしましょう。今日、自分はイエス様にこんなふうに答えてみました。「これしか答えられなかった、うまく言えなかった」でもいいでしょう。「前はイエス様のことをこう思っていたけど、今はこういうふうに思うようになったのです」とか。それを誰かに話してみたいと思うのです。イエス様との会話が誰かとの対話につながればと、願います。今日は今日なりの応答を試してみよう。

ペテロたちがどう思っているかも、人々がどう思っているかも、イエス様全部わかっていたはずですよ。私たちがどう思っているかもイエス様は聞かなくてもわかっています。ではなぜ尋ねるのでしょうか。あえて尋ねておられるのです。全てご存知で、でもお尋ねになる。「あなたの口から聞きたい。あなたの思いを聞きたい。わたしへのあなたの思いを聞きたいのだ。わたしはあなたにとって何ですか。どんな存在なのですか。あなたの声で、あなたの言葉で聞かせて欲しい」。イエス様がそう願って私たちにも迫って来られます。私たちの顔を見て目を見て、「あなたがたにとってわたしは誰か、わたしを誰だと言うか？」と尋ねておられます。さあ何と答えましょうか。イエス様は私たちを見て尋ねます。ちゃんと向き合って尋ねて、あなたからちゃんと聴きたいのだと言ってくださる。2020年8月の今日の自分なりに。あなたにとって父・御子・御霊のお方はどんなお方でしょうか。

### Ⅲ 私の神

聖書の中にもこの父・御子・御霊のお方を「私の神」として告白した人たちがいます。聖書の中に「私の神」の告白があるのです。例えばダビデは、「主は私の羊飼いです、私を見守り、ともにいる方です。私を行くべきところに必ず連れて行ってくださる方」と告白しました。

またこういう告白もあります。さあこれは誰の言った告白でしょうか。「私はそこに、苦難の日に私に答え、私が歩んだ道でともにいてくださった神に、祭壇を築こう」。「私が苦しかった日、私に答えてくださった神、私が歩んだ道でどこでも一緒に歩いてくださった神だ」と告白しました。そしてその同じ人が別のところでこう言っています。「私の先祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神、今日のこの日までずっと私の羊飼いであられた神。全てのわざわいから私を贖われた御使い、この子どもたちを祝福してくださいますように」。さあこれは聖書クイズですけど、誰が言ったのでしょうか？今のはふたつとも旧約聖書のヤコブです。同じ人です。ひとつ目は創世記 35 章 3 節、ふたつ目は創世記 48 章 15 節 16 節 のところです。

ひとつ目は彼がベテルに上れと言われた時に言った言葉ですね。「私たちは立ってベテルに上っていきましょう。私はそこに祭壇を築こう。苦難の日に私に答え私が歩んだ道で共にいてくださった神」。ベテルというのはヤコブが若い時、家を出てひとりになって、初めて土の上で眠って、神様と出会ったその場所です。それから、おじラバンのもとに行き、いろんなことがあって、そして妻たち子どもたちが与えられて増えて、そして帰ってくる。兄エサウと和解して帰ってきた。それが 35 節です。人生の半ばです。苦しかった日に、私に答えてくださった。私が歩んだ道どこでも共にいてくださった神。

そして 48 節、先ほどのが人生の半ばだとするならば、今度は人生の終わり近く、晩年の信仰告白です。ヤコブは、ヨセフと、ヨセフの息子マナセとエフライム、ヨセフとその子たちを祝福しました。そして言いました。「私の先祖アブラハムとイサクがその御前に歩んだ神よ」。自分のおじいちゃん。神様、あなたは私の祖父アブラハムの神です。私の父イサクの神でした。しかし、そのあなたが私の羊飼いとなってくださった。「今日のこの日までずっと私の羊飼いであられた神よ、この子どもたちを祝福してください」。「私の息子を、ヨセフ、その子どもたちマナセとエフライム、またその子孫たちを、祝福してください」と彼は祈っています。ひとりの人の人生の中で「私の神」への告白が深まっていきます。

人生の半ば、ターニングポイントにおける「私の神」への告白がある。また晩年の告白があります。新約聖書でも例えば、パウロも「私の神」は私にとってこういう方、私にこういうことをしてくださった方、と告白しています。例えば、ガラテヤ 2 章 20 節です。またトマスは何と言ったのでしょうか？短い言葉です。「我が主、我が神」と、イエス様を呼びました。

私たちにもそれぞれに、「神は私にとってこういう方、私にこんなことをしてくださった方です」という告白があるでしょう。一人ひとり、人生の途上で、「私の神はこういう方だ」と、イエス様に「わたしを誰だと言うか？」と尋ねられて、精一杯の答えをするのです。そして向き合い、答えながら歩んで行く時に、その信仰の告白が成長し深まっていきます。

今日、皆さんそれぞれは、人生の旅のどの辺りにいるでしょうか？若い人たちにとっては、これから人生が始まっていく、これから開けていく、これから航海が始まると思う人もいるでしょう。人生の半ばだなと思う人もいるでしょう。終わり近くだと思える人もいます。

それぞれに、私の神への告白があつて良いのです。今日は、今日なりの私の神への告白をさせていただきます。私たちは同じ方に導かれている羊同士、同じ羊飼いに導かれている羊同士であり、ひとつの群れです。同じ父に愛されている息子であり、娘です。共通の信仰をいただいている。でも、一方で一人ひとりに信仰の発見があり、一人ひとりの「私の神」への告白があります。

「あなたはわたしを誰だと言いますか？あなたの心を聞かせてほしい。もっとわたしを知ってほしい」。イエス様が言われます。今日、私たちはお互いの共通の信仰の告白に基づいて、共に聖餐にあずかろうとしています。イエス様が、「あなたはわたしを誰だと言いますか？」と問いかけておられます。一人ひとり、今イエス様に答えてみましょう。「イエス様、あなたは私にとってこういう方です」と祈りましょう。

お祈りします。

イエス様、あなたは私たち一人ひとりに目を留めてくださるお方です。一人ひとりが、「イエス様、私にとってあなたはこういう方です、こういうことをしてくださいました、イエス様、あなたのことをもっと知ることができますように」と祈る時に、そのすべてを聞いてくださるお方です。ほかの誰とも違う私たち一人ひとりですが、あなたは目を留めてくださいます。そして私と違うほかの人にも目を留めてくださいます。そしてあなたは共に歩み導いてくださいます。あなたこそ私の神です。あなたこそキリストです。私たちの救い主です。今日私たちは共にその告白をし、賛美をささげます。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。